

## II 「確かな学力」の育成

### 1 「習得」とその「活用」を図る授業について

#### (1) 今年度の課題

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得とその活用を図る学習活動を推進し、共通理解・共通実践の充実に努める。

#### (2) 課題解決に向けた取組

確実な習得と活用を図る授業づくりを支援するとともに、小・中連携の視点も踏まえた取組を推進する。

#### (3) 取組の実際

##### ア 「習得」と「活用」を意識した授業づくりについて

学校訪問の分科会や全体会、校内研修推進事業等で、「知識・技能の確実な習得とその活用を意識した授業づくり」について、一単位時間の問題解決的学習の学習過程に沿って授業改善のポイントを示し、継続した指導を行った。授業改善におけるポイントは、以下のとおりである。

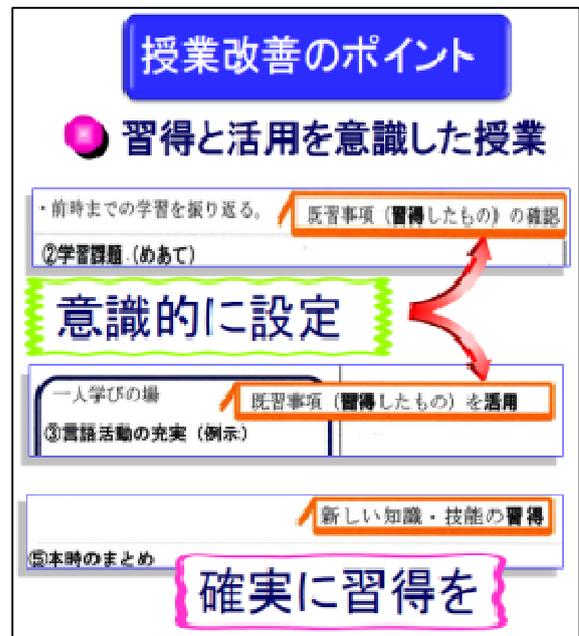
#### ポイント① 「習得」と「活用」の意識化

はじめに、「つかむ」段階において、「既習事項の確認の場」を意識的に設定し、「さぐる」「深める」段階では、一人学びや交流の場（ペア・グループ、全体等）で、「習得したものを児童生徒が主体的に活用していく場」を意識的に設定する。

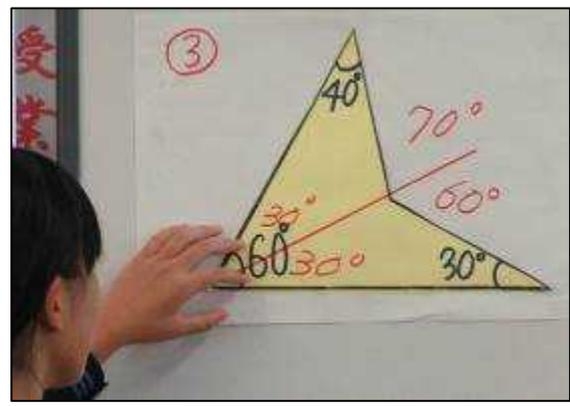
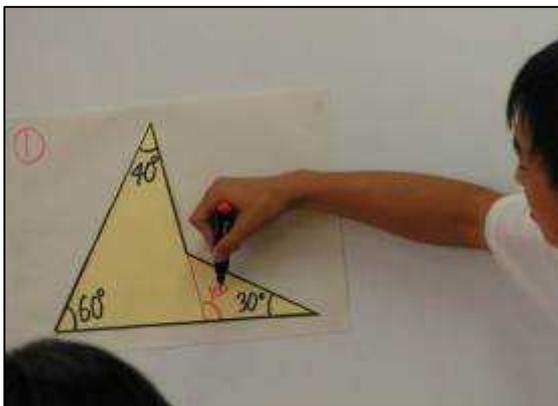
また、「まとめる」段階では、その時間に習得させるべき基礎的な知識及び技能を確実に習得し、次の新しい課題の解決の過程で児童生徒が活用できるようにする。（図1）

授業マイスター公開授業で参観した授業において、既習事項の活用を意識した授業が見られた。（写真1）

<図1:一単位時間の習得と活用の場の設定>



(写真1:天草市立本渡中学校 授業マイスター公開授業 中2数学の授業から)



<既習事項を活用して問題を解決する例>

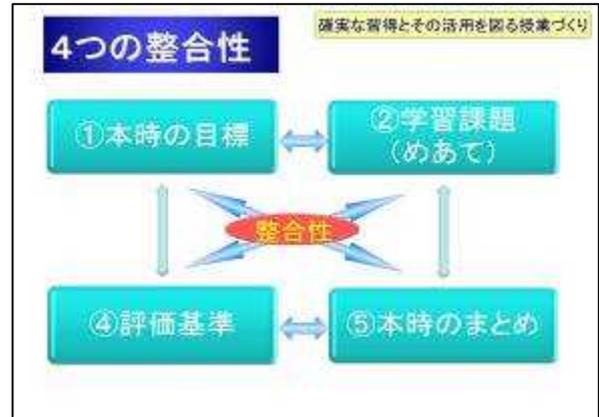
## ポイント② 4つの整合性

本時の授業展開を構成するときには、学習指導要領に基づき、単元の目標を踏まえたうえで、本時の目標を設定する必要がある。その際、「本時の目標」と「評価基準」との整合性が図られるようにする。

また、「学習課題（めあて）」の設定についても、「めあて」を追究することで本時の目標が達成できるように設定する。ここでも「めあて」と「まとめ」について整合性を図ることが大切である。その上で、4つが相互に整合性が図られていれば、ねらいが明確になった授業と言える。（図2）

引き続き、この4つの整合性と特に、「めあて」と「まとめ」が対応しているかという視点で学習指導案を検討していただきたい。

<図2:4つの整合性>



## ポイント③ 評価基準（B）の設定

評価基準を設定する際は、児童生徒が本時の目標を達成できたかを判断するものさしとなるよう「具体的な子どもの姿」で表すようにする。（図3）

学習指導案における展開案で、評価基準の設定の事例を示した資料（「学習評価の一層の充実に向けて～評価基準の設定とそれに基づく授業づくり～」）が、熊本県教育委員会HPに掲載されているので参考にさせていただきたい。

<図3:評価基準(B)の設定の例>

授業改善のポイント3

小3理科  
「ものの重さをしらべよう」の例

● 評価基準の設定

ねんどは、形が変わっても重さはかわらないことを表現している。

さらに具体的な児童の姿で……

実験の結果から、ねんどは、形を変えたり分けたりしても、重さは変わらないと考え、ノートに記述している。

## ポイント④ 「めあて」と「まとめ」の板書

「学習課題（めあて）」と「まとめ」については、授業の中で確実に板書をしていただきたい。児童生徒にも、導入の段階で学習ノートに「めあて」を書かせ、最後に「めあて」に対する「まとめ」をきちんと書かせるよう指導されてきている。（表1）まとめの際は、教師の一方的な「まとめ」ではなく、授業の中で児童生徒が表現したものを生かし、児童生徒の習得が図られるよう留意する必要がある。（図4）

<図4:「めあて」と「まとめ」の板書>

2 補充学習や日々の取組の工夫 ③ 天草市立本渡中学校

ポイント 授業のまとめの板書で、家庭学習のポイントを確認

学習課題: 次方程式を立て、問題を解決しよう!!

板書整理の工夫: 「学習課題」「まとめ」「自学のポイント」をプレートで提示

自学のポイント: 自分から法まで、丁寧に書いておくと!!

「自学タイム」への効果: 取りかかりがスムーズになり、家庭学習の計画を立てやすい。

「家庭学習」への効果: その日の学習内容を、授業のねらいにそって、ポイントを押さえながら的確に復習でき、基礎学力の向上につながる。

生徒は、下校前に行う「自学タイム」でその日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てるとともに復習を始めます。授業の板書を工夫することで家庭学習ではポイントをおさえ復習ができ、授業と家庭学習がリンクした学習習慣の確立につながっています。

<熊本県教育委員会HP 本渡中学校の例>

<表1:授業で「学習の目標」と「まとめ」を書くことの本草管内の状況> ( )は県平均

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
授業で扱うノートに、学習の目標とまとめを書いていたと思う児童生徒の割合		95.2 (89.0)		91.1 (83.1)

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
授業で扱うノートに、学習の目標とまとめを書くように指導した教職員の割合		100 (96.1)		90.5 (85.8)

<H26、27全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査から>

### イ 「習得」と「活用」に関する本草管内の状況

「習得」と「活用」を意識した授業づくりについては、各学校で校内研修における研究授業を通して、共通理解・共通実践が進められている。平成27年度の本草管内の状況は、表2、3のとおりである。

<表2:「習得」と「活用」を意識した授業づくりの本草管内の状況> ( )は県平均

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れていると回答した教職員の割合	98.9 (98.1)	99.5 (98.3)	94.4 (96.8)	97.3 (96.7)

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると回答した教職員の割合	95.1 (91.8)	96.8 (91.1)	88.3 (86.9)	89.2 (86.1)

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行っているという回答した教職員の割合	71.6 (61.7)	70.0 (62.5)	43.4 (49.0)	46.7 (48.3)

<H26、27熊本県学力調査 教師質問紙調査から>

#### 【考察】

- ・ 授業の冒頭に目標を示す活動を取り入れている教師は、小・中学校ともに県平均を上回っている。中学校では、昨年度に比べ3%程伸びており、学校総体として取り組まれている。
- ・ 授業の最後に、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていることに関しては、小・中学校ともに、県平均を上回っている。中学校では、伸びてはいるもののめあてを示す活動に比べ、やや低い状況である。
- ・ 児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて、個に応じた指導を行っている教職員は、中学校で県平均を下回っている。

<表3:「知識」「活用」別定着率の天草管内の状況>

(○…県平均を上回る ▲…県平均を下回る ―…県平均と同じ)

		小3	小4	小5	小6	中1	中2
「知識」	国語	▲	○	▲	○	○	▲
	社会	/	/	/	/	○	▲
	算数・数学	○	○	○	○	—	○
	理科	/	/	/	/	▲	▲
	英語	/	/	/	/	▲	○
「活用」	国語	▲	○	▲	▲	○	▲
	社会	/	/	/	/	○	▲
	算数・数学	○	○	▲	○	▲	▲
	理科	/	/	/	/	▲	▲
	英語	/	/	/	/	○	—

<H27熊本県学力調査 から>

**【考察】**

- ・ 小学校については、全体的に昨年度より低下している。特に小学校5年と中学校2年は、「知識」「活用」に関わらず課題が見られ、小学校3年は、「知識」に課題が見られる。
- ・ 小学校4年と中学校では、「関心・意欲を高める導入の工夫」や「学習したことを振り返り、定着を図る活動」を行う必要がある。

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・ 校内研修において、研究授業を全体の検証の場と位置づけ、年間を通して継続的な取組を進めている学校があった。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を「習得」する場面とそれらを「活用」する場面を意識的に設定した授業が多く見られた。特に、「めあて」と「まとめ」の板書については、確実になされている学校が多かった。

イ 課題

- ・ 特に「学習課題（めあて）」と「まとめ」の整合性を図ることや評価基準を「具体的な子どもの姿」で設定することについては、引き続き研究授業等で学習指導案を検討する視点として重視する必要がある。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、本時のまとめを授業時間内に行う必要がある。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 「習得」と「活用」を図る学習活動を重視した授業づくりを充実させ、校内での共通理解・共通実践を積み上げ、すべての児童生徒の学力向上を図る。

<参考資料>

- ・ 学習指導要領解説 平成20年8月（中学校）、9月（小学校）
- ・ 平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月
- ・ 平成27年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成28年1月
- ・ 平成27年度全国学力・学習状況調査 報告書 文部科学省 平成27年8月
- ・ 学習評価の一層の充実に向けて～評価基準の設定とそれに基づく授業づくり～  
熊本県教育委員会 平成24年3月

## 2 言語活動の充実

### (1) 今年度の課題

教科等の目標達成に向けた、ねらいを明確にした言語活動の充実を図る。

### (2) 課題解決に向けた取組

目標やねらいの達成のための効果的な言語活動となるよう、指導計画への位置付けやねらいを明確にした設定について指導・助言を行う。

### (3) 取組の実際

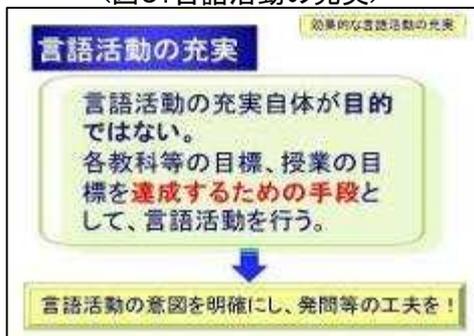
#### ア 教科等の特質に応じた言語活動の充実について

学校訪問や校内研修推進事業等の中で、「教科の目標や授業のねらいを達成するための手段としての言語活動を行う」ことについて指導を行った。

大切なことは、授業の中で各教科等の目標が達成できるように、教科の特質や児童生徒の発達段階に応じた適切な言語活動を選定し、何をどのように表現させるのか「言語活動の意図」を明確に設定することである。(図5)

特に、思考力・判断力・表現力を高めるための共同解決における班での話し合い活動を行う際に、目標やねらいに迫るためねらいを明確にした言語活動を設定していただきたい。(図6)

〈図5:言語活動の充実〉



〈図6:H23 学習評価の一層の充実に向けて小学校算数 熊本県教育委員会HPから〉

<p>【言語活動】(設定の意図) L字型の面積の求め方を、正方形と長方形の面積を基に、式と図を照らし合わせながら、互いに説明し合うことにより、いろいろな図形の面積の求め方を考えることができるようにする。</p>	<p>徹底指導 (ポイント) ◎色分けした図形を使って、L字型の図形の面積は、長方形や正方形の面積の和や差で求めることができることを理解させ、計算によって求めさせる。</p> <p>能動型学習 (ポイント) ◎面積を求めさせるだけでなく、ア</p>
---	--

#### イ 「言語活動の充実」に係る天草管内の状況

「言語活動の充実」については、ほとんどの学校で校内研修のテーマや内容に設定し、共通理解・共通実践が進められている。天草管内の状況は表4のとおりである。

〈表4:「言語活動の充実」に係る天草管内の状況〉 ( )は県平均

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
児童生徒が自分の思いや考えを書いたり、発表したり、意見を交換する場を設けている教職員の割合	94.9 (92.1)	95.6 (92.1)	76.8 (78.1)	80.5 (76.9)

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
文章、絵や写真、図や表、グラフなどを関連付けて読み取らせ、考えたことなどを表現させるような学習活動を行っている教職員の割合	89.3 (84.0)	89.0 (83.3)	63.9 (68.2)	70.8 (68.8)

〈H26、27熊本県学力調査 教師質問紙調査から〉

【考察】

- ・小学校においては、両項目で県平均を大きく上回っているが、資料を関連づけての学習活動については、昨年度よりもやや低下している。
- ・中学校においても、両項目とも県平均を大きく上回っている。言語活動の充実に意識して取り組まれてきている。

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・ほとんどの学校で、「言語活動の充実」を校内研修の研究の柱の1つとして位置付けて取り組まれていた。また、学習指導案の「本時の展開」に、「言語活動の意図」が位置付けられている学校が多かった。
- ・ペアやグループ、学級全体で言語活動の意図に応じて、小ホワイトボード等を活用しながら自分たちの考えを説明したり、発表したりする活動を位置付け、ねらいにせまる授業が見られた。

イ 課題

言語活動として「話し合い活動」の設定が行われているが、自分の考えの紹介にとどまってしまう場合が見られる。考えを深め、広げるためにも、言語活動のねらいを明確にし、児童生徒に意識させる必要がある。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 言語活動を充実させる前提として、自力解決（一人学び）での学習活動を充実させる課題設定が必要である。
- 教科の目標や授業のねらいに応じた言語活動の選定を充実させ、何を、どのように表現させるのか「言語活動の意図」を明確に位置付ける必要がある。

<参考資料>

- ・学習指導要領解説 平成20年8月（中学校）、9月（小学校）
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】文部科学省 平成22年12月
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】文部科学省 平成23年5月  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/genko/1301088.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genko/1301088.htm))  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/genko/1306108.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genko/1306108.htm))
- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月
- ・平成27年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成28年1月

3 県学力調査の活用

(1) 今年度の課題

県学力調査や全国学力・学習状況調査等を活用した検証改善サイクルの確立を図る。

(2) 課題解決に向けた取組

県学力調査や単元別評価問題等を活用した教材開発や授業づくり、評価問題づくり等、各学校の実態に応じた活用の推進が図られるよう指導・助言を行う。

(3) 取組の実際

ア 県学力調査や課題克服プリント、単元別評価問題の活用について

今年度も、「県学力調査」の結果報告を県教育委員会HPにのせるとともに、各小・中学校へ「分析支援データ」と「課題克服プリント」を提供した。また、結果の概要をリーフレット形式で全教職員へ配付する（4月配付予定）。このリーフレットには、授業改善に向けたチェックリスト等を紹介してある。（図7）

これらを活用して、自校の調査結果を県の調査結果と比較・分析し、その課題改善に向けて各教科の授業改善はもとより、補充指導等の充実を図るなど、学力向上対策委員会からの提言をもとに、PDCA検証改善サイクルの見直しを行い、学校総体として学力向上の取組を推進していただきたい。（図8）

＜図7:授業改善に向けた  
チェックリストの例＞

＜図8:学力向上委員会からの提言＞

**学力向上対策検討委員会からの提言**  
～学校全体の学力の傾向や課題について全教職員で共通理解し、学校全体として組織的に取り組みましょう～

① 学習目標（めあて・ねらい）の提示や、学習の振り返り、まどめを確実に実施し、各教科における授業モデルを共通実践し、「分かる授業」に取り組ましよう。

② 主張点や根拠・理由を明確にして表現（話すこと、書くこと）したり、互いの考えに学び合ったりするなど、児童生徒の言動活動を充実させ、表現力等の育成に取り組ましよう。

③ 学年に応じた家庭学習の在り方について全教職員で共通理解し、「家庭学習のめびき」で学習方法を具体的に示し、継続的な指導と評価のもと、児童生徒の主体的、計画的な学習習慣の形成に取り組ましよう。

④ 授業を積極的に公開し、教師が互いに学び合いながら、日常的に指導力の向上に努めよう。

⑤ 児童生徒の学力・学習の状況や学校の取組の状況を、家庭や地域に積極的に発信し、学校と家庭・地域が連携・協働して学力の向上に取り組ましよう。

＜平成27年度「熊本県学力調査」結果(概要)から＞

イ 県学力調査の活用に係る天草管内の状況

各学校で県学力調査や単元別評価問題の活用が進められている。天草管内の状況は、表5のとおりである。

＜表5:県学力調査の活用に係る天草管内の状況＞

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
県学力調査の結果をもとに、児童生徒の学力等の実態について教職員全員で共通理解を図った学校の割合	100	100	95.7	100

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
県学力調査の結果をもとに、これまでの学校の成果や課題について検証を行った学校の割合	94.6	91.9	95.7	100

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
県学力調査の問題分析をもとに自校で独自の評価問題の開発に取り組んだ学校の割合	27.0	24.3	56.5	52.4

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
県学力調査の過去問題を授業やテスト等で活用している学校の割合	100	100	95.7	95.3

＜H26、27教育指導の反省から＞

【考察】

- ・ 県学力調査結果をもとに、児童生徒の実態の分析や学校の成果や課題についての検証は、小・中学校ともによく行われている。
- ・ 評価問題の作成への活用については、小学校で4分の1、中学校で半数程度が行われている状況である。ただし、県学力調査の過去問題の授業やテスト等へ活用は、ほとんどの小・中学校で行われている。今後も課題克服プリントや単元別評価問題、過去問題の活用を積極的に図る必要がある。

<図9:河浦中学校の検証改善サイクル 一部抜粋>

天草市立河浦中学校では、県学力調査と全国学力・学習状況調査結果から、自校の課題を把握し、その課題改善に向けて学校総体として、役割分担（赤線囲み）と取組時期・内容が、計画的、組織的に設定された検証改善サイクルの確立がなされていた。（図9）

注担当		校務分掌⑨ (研究組織)	教科担当⑩	学年部⑪	全職員⑫	
8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研究授業期間(小研) ⑬⑭						
※教育委員会学校訪問 ⑮						
研究授業・大研 ⑯						
全国学力・学習状況調査結果	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
⑳	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂
㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉
㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄
㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆
㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀	㉁
㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇	㉈
㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	㉀	㉁	㉂	㉃
㉄	㉅	㉆	㉇	㉈	㉉	㊰
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㉀	㉁	㉂	㉃	㉄	㉅
㉆	㉇	㉈	㉉	㊰	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㉀
㉁	㉂	㉃	㉄	㉅	㉆	㉇
㉈	㉉	㊰	㊱	㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㊼						

#### 4 基礎学力の定着

##### (1) 今年度の課題

個に応じた補充指導や、主体的な家庭学習習慣の確立に向けた取組の充実を図る。

##### (2) 課題解決に向けた取組

学校総体としての補充指導や家庭学習の指導の工夫等について、小・中連携の実践例等を紹介しながら、宿題や自主的な学習が各学校の実態に応じて取組が図られるよう指導・助言を行う。

##### (3) 取組の実際

###### ア 基礎学力の定着に向けた取組について

学校訪問では、各学校における学校総体としての補充指導や家庭学習の状況を確認した。授業以外に補充指導の時間を設定し、全教職員で基礎的・基本的事項等の定着を図っている学校があった(図10)。また、1学年1学級の中学校では、少人数・TT指導等を学校総体として工夫している学校がほとんどであった。今後も、学校や児童生徒の実態に応じた学力充実の取組をお願いしたい。

<図 10: 業前・業間活動の時間を活用して取り組んだ本渡北小学校の実践例>

	12月	チ	・物語文を読むこと	ア P.71 (国語)
	19日	チ	・量の大きさの測定値 (平均)	ゆ P.7 (算数)
	26日	チ	・大造じいさんとガン	ゆ P.82 (国語)
12月	3日	チ	・平面図形の性質	ゆ P.9 (算数)
	10日	つ	・	
3回	17日	チ	・説明文を読むこと	ア P.70 (国語)
1月	14日	つ (放送)	・今年の抱負を紹介しよう	放送による一斉
3回	21日	チ	・百分率	つ・・・「つなごうタイム」表現力アップの時 チ・・・「チャレンジタイム」学力充実 ☑・・・アシストシート ☒・・・ステップアップシート ☒・・・ゆうチャレンジ単元別問題集
	28日	チ	・適切な内	
2月	4日	チ	・円グラフ	
	18日	チ	・言葉の性	
3回	25日	チ	・分数のか	
3月	3日	チ	・課題克服	

ほとんどの学校で家庭学習の習慣化を図るために、「家庭学習のてびき」を作成している。また、小学校高学年では、中学校と連携した自学の取組を推進し、その日の授業の復習を中心とした家庭学習に取り組まれていた。(図11)

<図 11: 本渡中学校(右図)の自学と連携した本渡北小学校(左図)の実践例>

**6年**

ノート例

4月14日(月)

算数 計算の解法  
①  $1.5 \times 3 = 4.5$   
②  $2.8 \times 2 = 5.6$

社会 縄文時代のくらし  
・生活の様子  
・道具など  
・感想

国語 新聞記事を書くこと  
四月十二日(五)の朝日新聞  
九洲北野新聞の「桜のつぼみ」の  
森町の山科でツバキの花が咲いた  
と報じた。これは、この地域で  
初めてのことだ。この花は、  
林を回りながら咲き、花びら  
を落とす。花びらは、花の  
心臓を保護する役割を  
果たしている。花びらは、  
花の心臓を守るために、  
花びらを落とす。花びら  
は、花の心臓を守るために、  
花びらを落とす。

日記を必ず書く。  
○学習内容に応じて、ノートを区切って取り組みましょう。(スタンダード1/4スペシャル1/2)  
○それぞれの学習の一行目には、科目と内容を書きましょう。  
○新聞記事を読んだり、本で調べたりする時に、意味が分からない言葉があれば、国語辞典で調べると更に力が伸びますよ。  
○文章は字数を決めて書いてみよう。

文ごと練習するのがコツだね!

国語 新出漢字を覚えよう!  
・ good good good ...  
(いい)  
・ soccer soccer soccer ...  
(サッカー)  
何題も書いて覚えよう!

数学 教科書 例題  
①  $4 \times 6 + 5 = 24 + 5 = 29$   
②  $7 - 2 \times 4 = 7 - 8 = -1$   
《やりなおし》  
 $7 - 2 \times 4 = 7 - 8 = -1$   
必ずやり直しましょう!

理科 重要語句をまとめよう!  
光合成…植物が光のエネルギーで、水と二酸化炭素からデンプンと酸素を取り出すはたらき  
重要語句を整理してまとめよう!

社会 江戸時代の重要語句を書こう  
武家諸法度 武家諸法度 武家諸法度 武家諸法度  
ワーク(P.44)  
① 徳川家康 ② 長巻 ③ 江戸幕府 ④ 石見墨山 ⑤ 1万石以上  
園々原 園々原 園々原 菅原金山 菅原金山 菅原金山

何題も書いて覚えよう!

## イ 基礎学力の定着に係る天草管内の状況

各学校で、個に応じた補充指導や家庭学習の指導等を工夫し、基礎学力の定着を図る取組が進められている。天草管内の状況は表6のとおりである。

〈表6：基礎学力の定着に係る天草管内の状況〉 ( )は県平均

項目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H26	H27	H26	H27
家庭学習の充実に向け、独自の家庭学習の手引き等を作成し、取り組んでいる学校の割合	86.5	91.9	82.6	90.5

〈H26、27教育指導の反省から〉

項目	小学校3年 [%]		小学校6年 [%]		中学校2年 [%]	
	H26	H27	H26	H27	H26	H27
家で、宿題がないときは勉強をしない児童生徒の割合	22.3 (20.3)	26.4 (24.5)	32.9 (30.0)	36.7 (32.8)	39.8 (38.2)	39.3 (38.2)

項目	小学校3年 [%]		小学校6年 [%]		中学校3年 [%]	
	H26	H27	H26	H27	H26	H27
前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えてほしいと思っている児童生徒の割合	51.6 (52.6)	40.5 (43.9)	56.4 (56.8)	59.8 (56.9)	76.3 (78.9)	76.1 (80.7)

〈H26、27県学力調査 児童生徒質問紙から〉

### 【考察】

- ・家庭学習の充実に向け、独自の家庭学習の手引き等を作成し、取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに9割超となっている。
- ・宿題がないときは家で勉強しない児童生徒の割合は、県平均を上回っており、小学校で増加の傾向にあるため、家庭学習の習慣化を図る必要がある。
- ・「前の学年で学習した内容を、もう一度教えて欲しい」と思っている児童生徒の割合は、学年が上がるにつれ増加している。

## (4) 成果と課題

### ア 成果

個に応じた補充指導については、担任や教科担当だけでなく、学校総体として計画的に取り組まれていた学校が多かった。家庭学習習慣の定着は、授業内容と関連させ、定着させるための工夫がなされている学校があった。

### イ 課題

全職員で家庭学習のねらいについて共通理解を図り、授業、家庭学習、補充指導等の関連を図りながら、基礎学力の定着に向けた取組を小・中連携の視点で工夫する必要がある。

## (5) 次年度へ向けた重点課題

- 全職員で家庭学習のねらいについて共通理解を図り、授業、家庭学習、補充指導等の関連を図りながら、主体的に取り組む家庭学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着に向けた取組を行う。

## 〈参考資料〉

- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年3月
- ・平成27年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成28年1月
- ・平成27年度「熊本県学力調査」結果(概要)熊本県教育委員会 平成28年3月